

## 協議事項（7）

## 義務教育学校におけるネットワーク環境及びICT機器の方向性について

## 1. ネットワーク環境 → 場所や使用人数に影響されない通信環境の整備が必要。

- (1) 「いつでもどこでも学べる学校」のコンセプトのもと、休み時間もタブレット端末を活用した活動を行えるようにするため、場所に影響されない通信環境が求められる。
- (2) 特に実技を伴う教科で動画を視聴する場面が増えると見込まれ、少なくとも全校の半分以上に動画を見ても不安定にならない通信環境が必要である。
- (3) 「ほっかいどうチャレンジテスト」や「全国学力・学習状況調査」が今後オンライン化されるため、解答中に動作が止まることなどがないようにする必要がある。
- (4) 授業の終末で行われる「振り返り」はタブレット端末で選択・記入・保存することが想定されるため、複数学年が同時に端末操作することができる環境が必要である。

## 2. 教師用PC → 1人1台の整備とする。

- (1) データの保存等、日常校務に使用しているPCを学習用にも使えることが簡便である。
  - (2) マイクロソフト社のアプリケーションを使った教材を活用する場面が多いため、校務用はWindows型が望まれる。
- ※ 児童生徒はchromebookを使用し授業での活用頻度も高い。教師も、上記の教師用PCとは別に児童生徒と同様のchromebookを1人1台使用できるようにするため、児童生徒の減少などにより使わなくなったものを可能な限り活用する。

## 3. 大型テレビ（投影機） → 65型タイプが望ましいが、50型でも対応可能。

- (1) 教室内の子供たちが全方位から距離に関係なく画面を見やすくする観点から、テレビ画面は大きいほうがよい。
- (2) 授業でテレビ番組を視聴する活用はないため、放送の受信機能はなくてもよい。
- (3) ただし、画面に提示するものはいずれにしても小さいため、端末に画像を飛ばし、各々が自身の端末で画面共有しながら授業を受けることができれば、50型でも問題ない。

## 4. 電子黒板機能 → 費用対効果が薄いため機能は付けない。

- (1) 操作がスムーズにいかず、ストレスになる可能性がある（業者デモで実感した）。
- (2) 教員が操作を習得する必要がある、新たなスキル獲得に時間がかかる。
- (3) 教員の人事異動によって使われなくなる可能性が高い。
- (4) 更新が必要となり予算がかかる。
- (5) 画面に提示しても見づらいため、端末に画像を飛ばし、各々が自身の端末で画面共有しながら授業を受けることができれば必要ない。